

経済・金融 フラッシュ

マレーシア経済:21年4-6月期の成長率は前年同期比+16.1% ～都市封鎖下の厳しい状況も、5四半期ぶりのプラス成長に

経済研究部 准主任研究員 齊藤 誠

TEL:03-3512-1780 E-mail: msaitou@nli-research.co.jp

2021年4-6月期の実質GDP成長率は前年同期比16.1%増¹（前期：同0.5%減）と急上昇し、市場予想²（同13.9%増）を上回る結果となった（図表1）。

4-6月期の実質GDPを需要項目別に見ると、主に内需の拡大が成長率上昇に繋がったことが分かる。

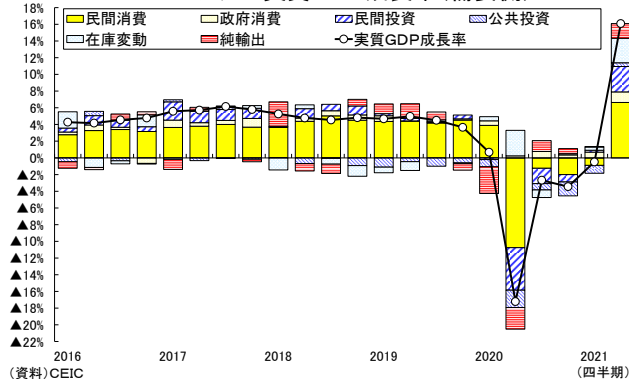
GDPの6割弱を占める民間消費は前年同期比11.6%増（前期：同1.5%減）と上昇して5四半期ぶりに増加した。

また政府消費は前年同期比9.0%増（前期：同5.9%増）と上昇した。

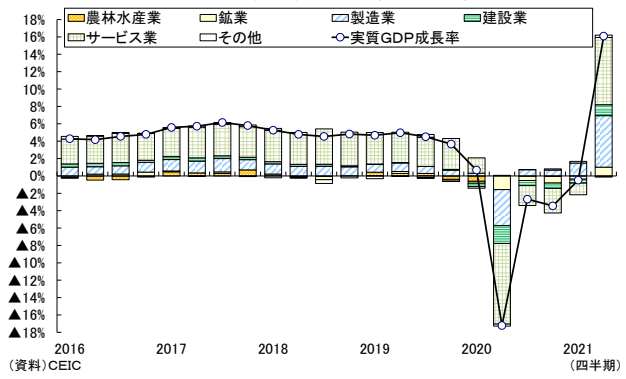
総固定資本形成は同16.5%増（前期：同3.3%減）と上昇して、2018年7-9月期以来のプラス成長となった。建設投資が同20.2%増（前期：同10.4%減）が増加に転じると共に、設備投資が同15.1%増と、前期の同10.3%増に続いて上昇した。なお、投資を公共部門と民間部門に分けて見ると、全体の4分の3を占める民間部門が同17.4%増（前期：同1.3%増）、公共部門が同12.0%増（前期：同18.6%減）と、それぞれ急増した。

純輸出は実質GDP成長率への寄与度が+1.8%ポイント（前期：+0.0%ポイント）から拡大した。まず財・サービス輸出は同37.4%増（前期：同11.9%増）と急上昇した。輸出の内訳を見ると、財貨輸出（同40.2%増）が一段と上昇したほか、大幅な減少の続いたサービス輸出（同9.8%増）

（図表1）
マレーシアの実質GDP成長率（需要側）



（図表2）
マレーシアの実質GDP成長率（供給側）



¹ 2021年8月13日、マレーシア中央銀行が2021年4-6月期の国内総生産（GDP）を公表した。

² Bloomberg 調査

が増加した。また財・サービス輸入は同 37.6%増（前期：同 13.0%増）となり、輸出同様に大きく上昇した。

供給側を見ると、第二次産業と第三次産業の回復が成長率上昇に繋がったことが分かる（図表 2）。

まず GDP の 6 割弱を占める第三次産業は前年同期比 13.4%増（前期：同 2.3%減）と大きく上昇してプラスとなった。運輸・倉庫（同 37.2%増）をはじめとして、宿泊・飲食業（同 9.1%増）や不動産・ビジネスサービス（同 1.2%増）がそれぞれ増加に転じたほか、金融・保険（同 23.3%増）や卸売・小売（同 20.9%増）、情報・通信（同 5.9%増）、政府サービス（同 5.6%増）が増加傾向を続けた。

第二次産業をみると、まず製造業は同 26.6%増（前期：同 6.6%増）と一段と上昇した。内訳を見ると、動植物性油脂（同 16.9%減）こそ減少したものの、主力の電気電子機器（同 27.9%増）やゴム製品（同 46.8%増）、輸送用機器（同 41.3%増）、化学製品（同 15.8%増）が大幅な増加を続けたほか、石油製品（同 34.0%増）が増加に転じた。また建設業は同 40.3%増（前期：同 10.4%減）、鉱業は同 13.9%増（前期：同 5.0%減）となり、それぞれプラス成長となった。

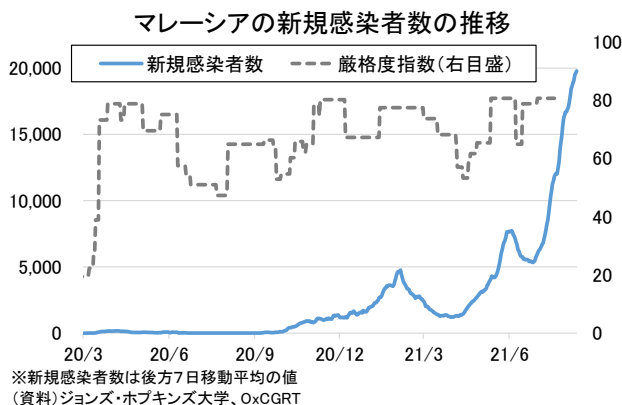
一方、第一次産業は同 1.5%減（前期：同 0.2%増）と減少した。畜産（同 6.3%増）やその他農業（同 6.0%増）、漁業・養殖業（同 1.5%増）、天然ゴム（同 0.9%増）が増加したものの、主要産品であるパーム油（同 10.9%減）の落ち込みが響いた。

（4-6 月期 GDP の評価と先行きのポイント）

マレーシア経済は昨年、新型コロナウイルスの感染拡大を背景に急速に景気が悪化、4-6 月期は新型コロナの封じ込めを目的に国内外で実施された活動制限措置の影響が本格的に現れて成長率が▲17.2%と急減した。その後は感染状況に応じて行動制限の緩和を進めたことで今年 1-3 月期には成長率は▲0.5%と次第に持ち直し、今回発表された 4-6 月期の成長率は前年同期比+16.1%と急増した。

4-6 月期の成長率の急上昇はベースの効果の影響が大きい。マレーシアでは今年に入って新型コロナの感染拡大が続いている。感染状況は 2 月をピークに第 2 波が沈静化したものの、4 月に第 3 波が到来した（図表 3）。政府は 5 月 12 日から全国で 3 回目となる厳格な活動制限令（MCO 3.0）を実施して州をまたぐ移動を禁止したが、ハリラヤ・プアサ（断食明け大祭、5 月 13~14 日）後

（図表 3）



（図表 4）



に感染ペースが加速したため、6月から全国規模の都市封鎖を実施、政府が指定する生活に不可欠な業種以外の社会・経済活動を禁止した。しかし、その後も変異株の蔓延や規制疲れなどによって感染拡大が続き、足元の新規感染者数は1日あたりの2万人台に達している。現在、東南アジア各国は感染拡大傾向にあるが、人口100万人当たりの新規感染者数（7日間移動平均）はマレーシアが606人と、タイ（295人）やインドネシア（113人）の倍以上の水準にあり、マレーシアの感染状況がいかに深刻化しているかがうかがい知れる。こうした感染状況の悪化と全国的な都市封鎖により、4-6月期はマレーシア経済に急ブレーキがかかることとなったが、前年の実質GDPが大幅に減少した反動による影響で大幅なプラス成長となった。実際、小売・娯楽関連施設への人流は6月にかけてコロナ前の6割の水準に落ち込んだが、前年同期の最大8割減と比べて減少幅は抑制されている（図表4）。結果として内需は、前期比（季節調整値）でみると民間消費が▲10.7%、総固定資本形成が▲7.5%と落ち込んだが、それぞれ前年同期比でみると+11.6%、+16.5%となり、見かけ上は内需が大きく伸びることとなった。

一方、財貨輸出（前年同期比+40.2%）は前期比でも+5.0%と順調に拡大した。コロナ禍で世界的に医療用手袋や電気・電子製品の需要が増えており、4-6月期は電気電子製品の出荷が前年同期比+34.9%、ゴム製品が同+183.1%と、前期に続いて二桁増となった。

マレーシアは新型コロナウイルスで受けた打撃からの復興の道りとして示した「国家回復計画」の下、段階的な制限緩和を進めようとしているが、現在のところ感染第3波の収束が見通せない状況にあり、当面は厳しい経済情勢が続きそうだ。4-6月期のGDP統計は見かけ上、高い伸びとなったが、今後は前年からの反動増の影響が剥落するだろう。一方、ワクチン接種は人口の3割が完全接種を完了（部分接種は5割完了）しており、年内の集団免疫獲得が見通せる状況になってきたことは明るい材料と言える。しかしながら、感染力の強い変異株を抑え込むには至らない可能性もあり、経済の早期正常化は難しそうだ。

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。